



うさぎだより

中野区議会議員●無所属

佐藤ひろこ

[事務所] 〒164-0001 中野区中野 1-33-9 TEL/FAX. 3368-9107 [区議会] 〒164-0001 中野区中野 4-8-1 市民自治控室 TEL. 3228-8874
http://homepage2.nifty.com/usagidayori/ mail : usagidayori@hotmail.com 編集:住民自治をすすめる会 発行:市民自治

佐藤ひろこの決算総括質疑から 子育てから介護まで 安心して暮らせる 地域をつくります。

佐藤 5分の3以上の人が要支援になりサービスが低下した。必要な改善策を検討するよう強く要望する。



佐藤 介護保険制度が変わって介護用ベッドが借りられなくなった、ホームヘルプが週9時間から1時間に減らされた等、困っているとの声が聞かれる。要介護から要支援になった人の実態をつかんでいるのか。
介護保険課長 4月から8月の要支援判定のうち、前回要介護1は二三五〇人で要支援になった人は八三二人。十分なサービスが受けられないとの声が区に届いている。

サービス低下は問題です

けない財政力を中野区も持たなければなりません。大きな転換期の中で、新たなしくみをしつかり提案していきます。



少子高齢化のまったただ中、団塊の世代が高齢者になる時、子ども達世代がこのままで行くと大きな負担を背負うことになります。住民サービスの提供の仕方の新たな展開や、国の制度改正に負

改善策が実現へ

介護用ベッドが引き続き使えるように補正予算が組まれた。

佐藤 10月から訪問食事サービスの回数が6回から3回に減った。なぜ、回数を減らしたのか。影響を受ける人数は。健康高齢課長 民間での事業の広がりもあり、要支援を対象からはずし回数も減らした。対象外になった人が四八〇人。
佐藤 安否確認の役割もある。改善するべきだ。

健康高齢課長 適切な民間事業者の紹介など努力する。

ヘルパーが足りない

佐藤 障害福祉サービスを行なっている事業所の悩みがヘルパー不足だ。ヘルパーがいないので利用者を断らざるをえなかった事業所もある。ヘルパー報酬が下がっていることが原因。来月4月に開設される江古田の森保健福祉施設でも職員が確保できていないそうだ。ヘルパーの確保についてどう考えているのか。
産業振興参事 区内での雇用創出と人材確保の視点から福祉介護の仕事をした人とな

通所、通学などにも 移動支援サービスを

佐藤 移動支援や日常生活用具などの地域生活支援事業を原則無料にし、社会参加を保障したことは大きく評価する。さらに通所、通学などにも移動支援サービスを使うようにするべきだ。
障害福祉課長 移動支援についてどのような方法が考えられるのか検討したい。

悩みや不安にこえる 子育て支援

- ・新産婦・新生児訪問事業
- ・親と子ここの相談室
- ・うつ・ひきこもり等相談
- ・育児支援ヘルパーの派遣
- ・要支援家庭の訪問
- ・一時保育の拡大
- ・子どもショートステイを15才まで拡大
- ・保育園や児童館での子育て相談
- ・子育てハンドブック「おひるね」の充実

わからないことは、区役所3階の子ども家庭総合相談窓口へさらなる子育て支援充実のためがんばります！

福祉教育に力を

佐藤 視覚障がい者にとつて街の人みんながガイドヘルパーであるという。障がいのある方から話を聞く福祉授業は効果を生み出している。充実するべきだ。

指導室長 介助体験など総合的な学習の時間に行っている。子ども達が人権尊重の意識を持つて、ともに生きる力を身につけるために充実に努めたい。

佐藤 いじめや虐待など子どもと親を取り巻く事件が後をも

学校発！

地球環境にやさしい

地域づくり

佐藤 モデル校として環境教育に熱心に取り組んでいる二中を視察した。民間の助成金を受け地域の力も合わせて屋上緑化や風力発電、太陽光発電に取り組んでいる。また、空き缶回収機が地域のNPOやPTAなどにより最近設置された。「神田川にホタルを」構想、軽井沢「ゆうゆうの森」での取り組みなど、安原校長のお話を夢を感じた。このような取り組みをぜひ広げるべきだ。

たたない。区として中学生が保育園児と触れ合う体験学習に取り組んでいるが、どのような成果を上げているのか。

指導室長 今年度職場体験の一つとして中学校5校が行なった。思いやりなどを育てるこうした体験は充実するべきだと考えている。

佐藤 中高生のための保育ポランティア養成講座が区民グループにより児童館と共催で行なわれている。(さくら館が発祥の地)区立中学校からの参加者が少ないそうだが、地域と連携した保育学習もすすめてほしい。

指導室長 そういう取り組みが一層充実できるように支援する。



警察大学校跡地 環境保全型の まちづくりを

佐藤 警察大学校跡地の地区計画の目標として、防災公園の整備や災害時の拠点としての安全性の向上が明記されている。

環境モデル地区を目指すべきである。緑地空間を4ヘクタール確保し緑地率を高め、車の流入やスピードを抑制するような道路づくりも必要である。

拠点まちづくり参事 環境保全型のまちづくりを積極的にすすめる。

佐藤 計画地内の桜並木、スタジイの林、ヒマラヤシダなどの樹木の保全についてどのような考えているか。

拠点まちづくり参事 可能な限り既存の緑を保全するとともに新たな緑も確保し緑豊かな環境を創出する。

佐藤 環境への配慮事項について、条例などで明記する必要があるが、どう検討しているのか。

拠点まちづくり参事 まちづくり条例の理念に環境への配慮を盛り込み、具体的な方策はガイドラインで示し、その遵守を地区計画で定める。

受動喫煙の防止を

佐藤 健康増進法により分煙が進められて来たが、すべての区有施設において分煙は達成できているのか。飲食店などの分煙はすすんでいないようだが啓発活動にはどのような取り組みをしているのか。

健康課長 昨年度に区有施設での禁煙、完全分煙をすべて達成した。1月に飲食店等の受動喫煙防止をテーマにしたシンポジウムを企画するなど啓発活動につとめる。

佐藤 昨年度、歩行喫煙の防止の条例を施行したが、その効果は。

環境課長 歩行喫煙禁止前は喫煙者率37%だったが現在は1%まで改善された。

財源の確保を しっかりと

佐藤 三位一体改革での国の負担金の廃止などによる、昨年度の区財政への影響額と今年度末までの影響額の見込みは。

財務課長 昨年度国の保育所負担金の廃止で9億5千万円、今年度は約14億円の影響額がある。来年度は住民税のフラット化で増収が見込まれるが、交

付金が減額されるので税源移譲分がまかないきれない。

佐藤 どのように財源を確保するの。

財務課長 都区財政調整交付金の52%の区の方への配分割合を54%に引き上げる予定。また新たな国の交付金を活用したい。税の収納率の向上、計画的な基金の積み立てなどすすめる。

佐藤 自治体が住民のセーフティネットを確立するためにこそ財政の自立は大切だ。区長の考えは。

区長 長期的に税収が増える構造にはない。発生主義会計などを導入し将来的な支出に計画的にそなえたい。

全国優良都市ランキング (日本経済新聞社調査)

行政革新度 全国14位へ中野区大きくアップ
2002年95位→2004年39位→2006年14位
市民参加度 全国8位を維持

トップは三鷹市で、改革が遅れ財政再建団体に転落する北海道夕張市との自治体間の格差が大きく広がっている。人口減時代に突入し自治体経営が住民の暮らしの生き残りのカギを握る。

佐藤ひろこの活動日誌から

8月

- 1 江古田の森保健福祉施設説明会
- 5 平和のつどい
- 8 我孫子市視察
- 17 障害者防災委員会
- 26 「阪神大震災での障害者救援の体験」講演会
- 27 NPO 法人ねこの手総会
- 31 総務委員会

9月

- 3 谷戸小学校総合防災訓練
- 6 中学校PTA連合会予算懇談会
- 7 「できることから」グループ
- 8 住民自治をすすめる会
- 9 NO 寝たきりデー・権利主張センター中野発会の集い
- 10 オレンジミントもぐもぐの会
- 11 中野駅周辺・交通対策特別委員会
- 12 補正予算内示・非核ネットワーク
- 15 第2中学校視察
- 20~22 本会議
- 23 ベビーサロン中野運動会・あしば祭
- 25 決算特別委員会総括説明・通所施設ひらっと見学
- 27~29 決算特別委員会総括質疑 (佐藤ひろこ質問)

10月

- 2 決算特別委員会総括質疑
- 3~5 決算特別委員会総務分科会
- 6 中野区政健全化区民会議の方々と懇談
東京女子大学東寮訪問
- 7 身近に起きる女性への暴力を考える会
- 7・8 中野まつり
- 10 決算特別委員会採決
- 11 タッチの会・本会議
- 12 障害者防災委員会
- 13 谷戸小学校公開授業・総務委員会
区民参加の中野をすすめる会
- 14 中野消防団合同点検
- 16 総務委員会
- 17 中野区福祉団体連合会と予算懇談会
- 18 防災特別委員会 (今回から所属が変わる)
- 20 本会議
- 21 障害児学級連合運動会・東部まつり
- 23 中野駅前トーク・桃園デイクラブ
- 24 視覚障害者福祉大会・福田秀人立教大学院教授出版を祝う会
- 29 東部地区運動会・障害者自立支援法説明と意見交換
- 31 「出直してよ!障害者自立支援法」大フォーラム
私立幼稚園連合会と予算懇談会

特殊勤務手当の廃止

中野区は特殊勤務手当数を大きく削減。十日や早朝・夜間の勤務者に支給する手当などを廃止した結果、今年度の支給額は60万円くらいで、昨年度の六〇〇〇万円から99%の減となる。手当受給対象職員数の率は72%で、23区の中でも最低の率となった。(23区平均は37.3%)

2005年度 決算認定に賛成

財政再建を行いつつ、一歩新たな福祉の充実をすすめていることを評価。
▼借金は前年より約三〇億円減らし五七八億円

▼貯金は前年より約五〇億円増やし一七五億円

▼セーフティネットの充実

子育て要支援家庭への訪問の実施・新生児訪問事業・育児支援ヘルパーの派遣・私立幼稚園預かり保育推進補助・DV被害者支援相談事業・グループホームや知的障害者通所施設の新設支援・コミュニティバス「なかのん」の運行開始など。

佐藤ひろこの討論から

小規模作業所への支援を要望(1号陳情採択)

小規模作業所が利用者が安心して通える通所施設として移行を行なえるまでの間、補助

地域の子育て支援の 新たな展開が 提案される

の継続はもちろんのこと、移行後の支援策も必要だ。他の自治体では小規模作業所が閉鎖され、利用者が行き場を失ってしまったという話もある。そういうことがないように、区有施設、空き教室利用などの支援を行い、利用者が安心して通える場が拡充されるよう要望した。

地域子ども家庭支援センター
当面4つの児童館に開設
仲町児童館・南中野児童館・丸山児童館・鷺宮児童館

(仮称)U18プラザ
南中野・宮の台・仲町・昭和・北

おすすめの映画

原・大和・かみさぎ児童館・城山・みずの塔ふれあいの家に開設するという提案。
(仮称)キッズ・プラザ
小学校を利用した遊び場開設。まず塔の山小学校で開設計画。より良い子育て支援のネットワークを、児童館を活用するやり方ですすめてほしい。

「不都合な真実」

二〇〇七年一月ロードショー
地球温暖化への警告をアメリカのゴア元副大統領が世界中を講演して回った、ドキュメンタリー映画。日本の豪雨やたつまきも気候異変の影響であることがわかる。一人一人の環

おすすめの本

「憲法九条を世界遺産に」
お笑い芸人「爆笑問題」の太田光と大学教授中沢新一の、憲法九条に輝きを与えるための熱い討論。九条の価値に感動する。(集英社文庫)

サービス 1が大きく変わった

2006年3月まで		2006年4月から	
要支援	6,150	要支援1	4,970
要介護1	16,580	要支援2	10,400
		要介護1	16,580

要支援1, 2は予防給付となり、予防を目的にするので、サービスはかなり限定的になる。

要介護1になるのは

◆認知症により予防が理解できない。

◆状態が不安定で予防できない。

◆という条件に合う人になる。

予防給付は月額払いで、利用者は回数多く希望するが事業者は対応できず、サービス時間が少なく押さえられる。これで介護予防になるのだろうか。

<http://homepage2.nifty.com/usagidayori/>

8月5日(月)

戦争をなくすために 私たちができること

中野区主催の「平和のつどい」に行った。さくら館で好評だった区民グループの朗読劇「白い花の咲く頃」など、東部や鍋橋、上高田の区民グループの取り組みが良かった。

6日は広島、9日は長崎に原爆が投下された日である。戦争と核を地球上からなくすために、その悲惨さを語り継ぐことは大切である。

9月3日(日)
防災訓練



防災の日 1日の前夜、防災無線から何か聞こえたがよく聞き取れなかった。その後大地震の警戒宣言の放送を間違つて中野区が流し、訂正放送をしたこと

区が流し、訂正放送をしたこと

がわかった。訂正放送するまでに40分もかかったことや、防災無線の聞き取りにくさは問題である。防災無線を見直すことになった

3日は朝8時半にOさんのお宅へ行く。中野障害者防災委員会の避難連絡網の初試験である。9時、地震警報発令サイレンの直後、連絡網で各障害者団体に伝わり、Oさんの携帯に連絡がきた。迎えにきた防災会の人といっしょに、車椅子で公園から総合防災訓練の会場である谷戸小学校へ避難。要援護者の避難場所の確認や、仮設トイレが車椅子でも使えるかどうかなど見て回った。

「現職議員、大学院で学ぶ」



9月3日の朝日新聞に、私が立教大学大学院で学んでいることが記事になった。二一世紀社会デザイン学科で、福祉政策から危機管理まで、様々

な職種の社会人達と学ぶ。政策力をつけてがんばりたい。

10月31日(火)

出直してよ! 障害者自立支援法



10月31日 「出直してよ!障害者自立支援法」のフォーラムが日比谷公園周辺であり参加し

た。車いす利用者など全国から一万五千人も集まった。中野からも作業所通所生などたくさんの人達が参加した。

10月から障害者自立支援法が本格実施された。自治体によつては介護量が減らされる所も出てきた。中野区はサービス量を下げないという約束してきたので、支給量が下がったという声はない。

しかし、国から介護報酬を減らされ、事業者がやっていけないという悲鳴を聞く。「ヘルパーがいなくなり困っている。」という人がいた。あちこちに電話しているが、どこの事業者からも断られているようだ。ヘルパー不足は深刻だ。若い人が希望を持ってヘルパー職に

つけるように、障がいがあっても安心して生活できるように、国は制度を見直すべきだ。(写真)厚生労働省前で法律の見直しを訴える人達と。

11月19日(日)

寒かったけれど、楽しかった



中野ハンディキャブ(車両による移動支援ボランティア)の交流会で三浦半島に行つた。あいにくの雨で寒くて、戸外を楽しむことはできなかったが、食事や三崎港での買い物を楽しんだ。帰りのバスの中で、みんな「楽しかった!」という感想。車椅子が何台も入る大型バス。

全身体障害の人はヘルパーと参加しているがあとの人にボランティアや家族がつく。介護保険の人は余暇活動にヘルパーを利用することができない。また移動支援のヘルパー制度を使っていない人もいる。みんなと一緒に出かける交流会は、外出の楽しさを体験するチャンスだ。

(写真)リフトでバスに乗車する様子。

地域懇談会

12月9日(土)午前10時~12時
沼袋地域センター洋室3号

12月11日(月)午前10時~12時
さくら館いこいの間

子育てから介護まで話し合いませんか。
お気軽にいらしてください。
主催 住民自治をすすめる会

佐藤ひろこの収支報告

2006年5~9月

	5月	6月	7月	期末手当	8月	9月
収入	¥588,200	¥588,200	¥588,200	¥1,407,268	¥588,200	¥588,200
支出	¥3,000	¥6,000	¥6,000		¥18,000	¥3,000
税	¥65,560	¥59,660	¥58,560	¥187,168	¥58,560	¥58,560
年金・保険	¥151,680	¥151,680	¥151,680	¥70,350	¥151,680	¥151,680
活動費	¥36,493	¥42,195	¥61,943	¥500,000	¥52,306	¥56,073
積み立て	¥3,000	¥6,000	¥6,000	¥500,000	¥18,000	¥3,000
残	¥334,467	¥334,665	¥316,017	¥149,750	¥325,654	¥321,887

*議会に出席すると1日につき3,000円の使用弁償がつく。本来ならなくすべきだ。積み立て、区外の団体に寄付をしている。